

ふくし どくほん
中学生福祉読本

こころ ゆた く
だれもが心豊かに暮らせるまちづくり

新潟市教育委員会



ふ だんの く らしを し あわせに

わが国では、平成28年4月1日に「障害者差別解消法」が施行されました。

この法律は、すべての国民が障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら、共生する社会の実現につなげることを目的としています。

新潟市では、同日に、「新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」が施行されました。(詳しくはp.27「条例の概要」p.28「条例の前文」等を参照)

新潟市では「障害」の「害」の字がもつマイナスイメージや当事者の方への配慮から、原則的にひらがなで表記することとしました。ただし、法律名や固有名詞などは、漢字で表記しています。

障がいのある人もない人も、年少者も高齢者も、すべての人々が誇りをもって、人と人との支え合いの中で、心豊かに暮らせるようになることが目指す社会です。

学校でもインクルーシブ教育システム(障がいの有無によらず、だれもが地域の中で学べる教育の仕組み)が進められています。

この冊子は、総合的な学習の時間等で、障がいのある人や高齢者についての理解や支援の在り方を学べるように、基本的な知識や情報を紹介している「福祉読本」です。

関連する本を読んだり、インターネットで検索すれば、さらに詳しい情報や最新のデータを得ることができます。

※この冊子は文部科学省、厚生労働省、新潟市等のHP、p.11~p.12の「関連する書籍」を参考にしています。

「福祉」の一つに「助け合い」があります。困っている人がいたら、声をかけ、自分ができることがないか尋ねたり、自分が困っているときは、遠慮なく、周りの人に助けを求めることが大切です。

皆さんの周りには、様々なボランティア活動を通して『だれもが心豊かに暮らせるまちづくり』を支えてくれている人たちがいます。中学生の皆さんも、その一員です。この冊子には、具体的な活動例や、様々な施設が掲載されています。ふ だんの く らしを し あわせにするために、自分に何ができるかを考え、行動に移していきましょう。



表紙と裏表紙の絵について

新潟市中央区にある障がい者の就労支援施設「あどぼんす」に通所している鈴木皓平さんの作品です。今までに多くの作品を製作してきた鈴木さんは、KFS ART CONTEST 2012で「安達博文賞」、2013年には「全国生涯学習ネットワークフォーラム」で「生涯学習奨励賞」を受賞しました。

目 次

⑤ だんの ④ らしを ③ あわせに

I 様々な障がいについて学ぼう 1
肢体不自由, 視覚障がい, 聴覚障がい, 車いす・アイマスク体験 (横越中学校)
内部障がい, 知的障がい, ボランティア活動をサポートする施設
発達障がい, 発達障がいの子どもたちをサポートする施設
精神障がい, 精神障がいの人たちをサポートする施設

II 障がいのある子どもたちの学習の場 9
通常の学級, 通級による指導, 特別支援学級, 院内学級, 特別支援学校
関連する書籍の紹介

III 障がいのある人たちの活躍 13
スペシャルオリンピックス 2016新潟
「スペシャルオリンピックス 2016新潟」に参加して
障がいのある人たちの働く姿, 障がいのある人の就職をサポートする施設

IV 高齢者について理解しよう 17
高齢化の現状, 高齢化による身体機能の変化
地域包括ケアシステム, 住民参加型在宅福祉サービス, 介護保険サービス

V 認知症について学ぼう 20
認知症とは, 認知症は予防できる, 認知症サポーターになろう
認知症の人と接するときの心構え

VI 高齢者の方たちの大きな力 24
新潟市シルバー人材センター, 民生委員・児童委員

VII 高齢者や障がいのある人たちとの交流 25
中学生が主役の防災訓練 (南浜中学校)
気持ちが安らぐステージ発表 (赤塚中学校)
夏休みの訪問ボランティア (白南中学校)
冬期五味出しボランティア支援活動 (亀田西中学校)

新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例 (概要・条例抜粋) 27

I 様々な障がいについて学ぼう

1 肢体不自由

脳性麻痺、脳血管障がい、事故による脊椎損傷、病気などによる筋力低下や関節損傷などで、歩行が困難になっている状態です。

ベッドに移ること、着替え、洗面、トイレ、入浴など、日常の様々な場面で、援助が必要な人が多くいます。

車椅子利用者にとっては、段差や坂道が移動の大きな妨げになります。手動車椅子の使用が困難な場合は、電動車椅子を使用することもあります。

【 車椅子を利用している人に対する配慮・理解 】

- 公共施設には車椅子用トイレを設置する必要があります。
- 会話するときは、しゃがんだりして視線をあわせましょう。
- 車椅子が入れるように、机などの高さを調節して、作業しやすくしましょう。
- 脊椎損傷のある人は体温調節がうまくできないことがあるので部屋の温度管理に配慮しましょう。



脳血管障がいなどで片側の手足に麻痺がある人や、事故により片足を失った人などは、杖や義足を使うことで、多くの人々が自立して日常生活を送っています。

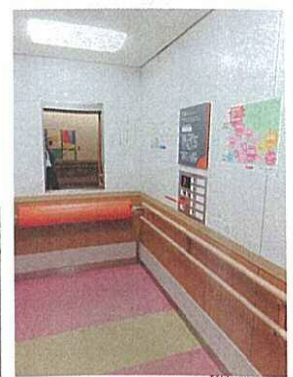
長距離の歩行、階段、段差、エスカレーターや人混みでの移動が困難になります。失語症（早口や長い話になると理解できない。伝えたいことをうまく言葉や文章にできないなど。）を伴う場合もあります。

【 杖を利用している人に対する配慮・理解 】

- 公共施設には、エレベーターや手すりを設置する必要があります。エレベーターの操作盤はボタンが押しやすい高さに設置します。
- 滑りやすい床などでは転びやすいので、雨天時などは注意が必要です。
- 靴の履き替えが必要な場合は、椅子を用意しましょう。



廊下の手すり



エレベーターの内部

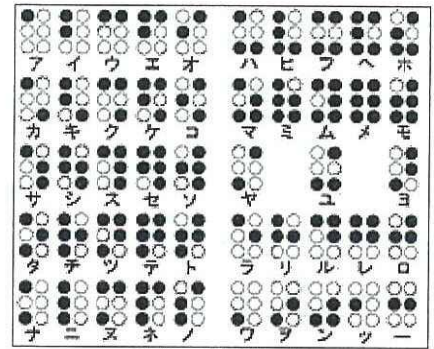
2 視覚障がい（視力障がい・視野障がい）

先天的に障がいのある人や、最近では、糖尿病性網膜症などで見えづらくなる人も多くなっています。高齢者では、緑内障や黄斑部変性症によるものも多く見られます。

視覚障がいの原因となる病気は、どの年齢でも発症します。中には失明する人も少なくありません。中途失明の人は、白杖を用いた歩行や、点字を読むことが困難なため、配慮が必要です。

・「視力障がい」は、視覚的な情報を全く得られない、またはほとんど得られない人（全盲）と、文字の拡大や視覚補助具などを使用し、残存する視力を活用する人（弱視）に分けられます。

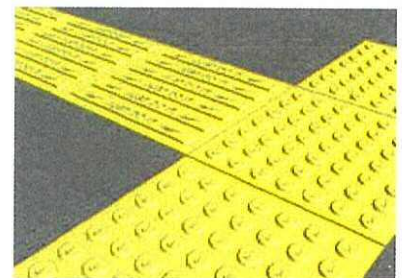
・「視野障がい」は、眼球を動かさないと見ることのできる範囲が狭くなる障がいです。見える部分が中心だけになってだんだんと周囲が見えなくなる「求心性視野狭窄」や、周囲はぼんやり見えるが真ん中が見えない「中心暗転」など、状態は様々です。



点字の五十音一覧表

【視覚障がいの人に対する配慮・理解】

- ・音声や点字などで、情報を伝えましょう。
- ・声をかける時には、ゆっくり近づき「〇〇さん、こんにちは。△△です。」のように、自分から名乗りましょう。
- ・説明する時には「それ」「あれ」「こっち」「このくらい」という表現は避け、「あなたの正面に」「〇〇くらいの大きさ」のように具体的に説明しましょう。
- ・普段から通路（点字ブロックの上など）に自転車などの通行の妨げになるものを置かないようにしましょう。
- ・日頃、視覚障がいのある人が使用している物の位置を変えないようにしましょう。



道路上の点字ブロック

3 聴覚障がい

聴覚障がいは、外見上わかりにくい障がいであり、その人の抱えている困難も他の人には気付かれにくいという特徴があります。

聴覚障がいの人は、補聴器や人工内耳を使用したり、手話、筆談、口話などを用いてコミュニケーションを図っています。補聴器や人工内耳を使用している場合、スピーカー一等を通した残響や反響のある音は、聞き取りにくい傾向があります。

【聴覚障がいの人に対する配慮・理解】

- ・後ろから話しかけてもわかりません。向かい合って話しましょう。
- ・手話や文字表示など、目で見てわかる情報を提示しましょう。
- ・音声だけで話すことは極力避け、視覚的な情報も併用しましょう。
- ・パソコンやタブレットなどのアプリに音声を文字に変換できるものがあるので、これらを使用すると筆談を補うことができます。



補聴器の例

くるまいす たいけん よこごしちゅうがっこう 車椅子・アイマスク体験（横越中学校）

よこごしちゅうがっこうでは、こうなんくしゃかいふくしきょうぎかい 民生委員、ボランティアの方々から来校いただき、くるまいすたいけん アイマスク体験をしています。くるまいすの使い方を学んだ後、乗る人と押す人の両方を実際にやってみることで、はじめて感じるがあります。

生徒の感想「体験する前は、くるまいすに乗るのは簡単だろうと思っていました。でも乗ってみると、なかなか難しいこともあって、くるまいすの方は、私が思っていた以上に大変な思いをしているんだなと感じました。」



4 ないぶしょうがい

しんぞう、はい、こきゅうき、じんぞう、かんぞう、ぼうこう、ちよくちよう、しょうちよう、きのうしやう、はたらかないこと) や、HIV (ヒト免疫不全ウイルス) による免疫機能障がいにより、日常生活に支障がある状態をいいます。外見からは、障がい者とはわからないこともあります。

つか、ちようじかんた、さぎやう、こんなん、つね、いりやうできたいおう、ひつよう、としてたりします。

【 ないぶしょうがいの人に対する配慮・理解 】

- ペースメーカーは外部からの電気や磁力に影響を受けることがあるので、注意すべき機器や場所などを学びましょう。
- 公共施設では、人工肛門の人のためにトイレにパウチ（便を一時的にためる袋）洗浄など、特殊な設備が必要となります。
- 人工透析が必要な人は、定期的に通院することが必要です。



オストメイト（人工肛門所有者）対応トイレ



オストメイトのマーク

- 呼吸器機能障がいのある人は、慢性的な呼吸困難、息切れ、咳などの症状があるので、楽な姿勢でゆっくり話をしてもらうようにしましょう。
- 常に酸素吸入が必要な人は、携帯用酸素ポンプを使用することが多いです。



携帯用酸素ポンプを使用している人

5 知的障がい

考えたり、理解したり、読んだり、書いたり、計算したり、話したりするなどの、知的な機能に発達の遅れがあり、生活上の適応に困難が生じます。

金銭管理、会話、買い物、家事などの社会生活への適応に関して、援助が必要です。

知的障がいの原因としては、ダウン症候群などの染色体異常や、出産時の酸素不足やトラブルによる脳症や外傷性脳損傷、乳幼児期の高熱によるものがあります。てんかんを伴う場合もあります。

ダウン症候群の特性として、筋肉の低緊張、知的な発達の遅れ、心臓に疾患を伴う場合があります。

【知的障がいの人に対する配慮・理解】

- 言葉による説明を理解しにくいことがあるため、ゆっくり、ていねいに、わかりやすく話しかけましょう。
- 文書は、漢字を少なくし、ルビをふるなどして、わかりやすい表現に直しましょう。
- 写真、絵、ピクトグラム（絵文字）など、わかりやすい情報提供を工夫しましょう。
- てんかんの発作には、けいれんしたり、突然意識を失うこともあるため、安全の確保に努めましょう。



ピクトグラム（絵文字）の例

ボランティア活動をサポートする施設

ボランティア・市民活動センター（新潟市社会福祉協議会HP参照）

ボランティア活動に「関心がある」「参加したい」「手伝ってほしい」人たちのための相談窓口として、様々な情報を集めて、ボランティア活動を応援している施設です。

ボランティア活動を希望する場合は、各区にある社会福祉協議会のボランティア・市民活動センターへ連絡してください。

6 発達障がい

発達障がいの特性は、だれもがもっている特性です。発達障がいの人とそうでない人を、明確に分けることはできません。その意味で、発達障がいは「強い個性」と捉えた方がい
いかもかもしれません。発達障がいの特性が強くと、本人が学びにくさや生きにくさを感じてい
る場合に、発達障がいという診断がなされます。

発達障がいは、脳の中樞神経（脳と脊髄）に何らかの機能障がい（機能が十分に働かないこ
と）があると考えられています。専門的な診断・検査をもとに一人一人の能力に応じた対応
策が求められるため、専門家と相談することが必要です。

蓄音機や電灯など、100以上の発明をした科学者のトーマス・エジソン（1847～1931）は、実験は好きでしたが、文を書くことが苦手でした。相対性理論を確立し物理学に貢献したアルベルト・アインシュタイン（1879～1955）も数学は非常に得意でしたが、語学が苦手でした。二人共、発達障が이었다と言われています。

○自閉症スペクトラム（自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障がい）

自閉症は、外からのいろいろな情報をきちんと知る働きに障がいがあるために、周りの状況がよく理解できず、うまく対応することができない状態を言います。

アスペルガー症候群は、広い意味での自閉症に含まれる一つのタイプで、幼児期には比較的わかりにくいですが、成長とともに人間関係の不器用さがはっきりしてきます。

<社会性の困難>

- ・相手の表情や態度などよりも、文字や図形、物の方に関心が強いです。
- ・見通しの立たない状況では不安が強いです。見通しが立つ時はきっちりしています。
- ・大勢の人がいる所や、気温の変化などに対して感覚が非常に敏感で苦勞していますが、それが芸術的な才能につながることもあります。

【自閉症スペクトラムの人に対する配慮・理解】

- ・肯定的、具体的、視覚的な伝え方の工夫をしましょう。
（「〇〇をしましょう」というシンプルな伝え方、図・イラストを使って説明するなど）
- ・スモールステップで支援しましょう。
（手順を示す、モデルを見せる、体験練習をする、新しく挑戦する部分は少しずつにするなど）
- ・感覚過敏がある場合は、音や肌触り、室温の調整を行いましょう。
（イヤーマフを活用する、大声で説明せずにホワイトボードで内容を伝える、人とぶつからないように居場所を衝立などで区切る、エアコンのある部屋を利用できるようにするなど）



イヤーマフ

○学習障がい (LD) learning disabilities の略

全般的な知的発達に遅れはありませんが、「読む」「書く」「計算する」などのいずれかが苦手です。本人は努力していても「勉強する気がない」と誤解されることがあります。

<読みの困難>

- ・1文字ずつ読む傾向があります。
- ・形の似た字を間違えやすいです。
- ・文をどこで区切って読めばいいかわからないことがあります。

<書きの困難>

- ・鏡文字（鏡に写ったような文字。上下はそのまま、左右が反転している。）になることがあります。

鏡文字

鏡文字の例

「モナリザ」や「最後の晩餐」を描いた画家としてだけでなく、様々な分野で素晴らしい業績を残した、イタリアのレオナルド・ダ・ヴィンチ（1452～1519）は、13000 ページものノートを、全て鏡文字で書いたことで有名です。

【LDの人に対する配慮・理解】

- ・得意な分野を積極的に使って情報を理解し、表現できるようにします。（ICTを活用する際は、文字を大きくしたり、行間をあけるなど、読みやすくなるように工夫します。）
- ・苦手な部分については、作業の量や内容を調整する必要があります。

○注意欠陥多動性障がい (ADHD) attention deficit hyperactivity disorder の略

ADHD は7歳以前に症状が現れ、社会的な活動や学校での生活に支障をきたすことがあります。育った環境などが原因で、ADHD そっくりの症状が引き起こされる場合もあり、専門家による診断が必要です。

次々と周囲のものに関心をもち、周囲のペースよりもエネルギッシュに様々なことに取り組むことが多い反面、次のような特徴も見られます。

<注意欠陥の特徴>

- ・活動に集中できず、気が散りやすいです。
- ・物をなくしやすく、忘れ物が多いです。
- ・順序立てて活動に取り組んだり、身の周りのものを片付けることが苦手です。



<多動・衝動性の特徴>

- ・じっとしてられず、席を離れて走り回ることがあります。
- ・順番を待つことが苦手です。
- ・静かに遊ばなくて、しゃべりすぎる傾向があります。

【ADHDの人に対する配慮・理解】

ADHDの人は、周りの人に叱られることが多いため、「がんばってもうまい自分」というイメージをもち、つらい思いをしているので、下のような配慮が必要です。

- ・短く、はっきりとした言い方で伝えましょう。
- ・気の散りにくい座席の位置、わかりやすいルール提示などを工夫しましょう。
- ・学習や作業は10～15分の集中できる時間に区切って行うといいです。
- ・望ましい行動をほめて増やしていくことが大切です。

発達障がいの子どもたちをサポートする施設

新潟市発達障がい支援センター「JOIN (ジョイン)」(新潟市発達障がい支援センターHP参照)
(新潟市中央区水道町1丁目5932-621 ☎025-234-5340)

発達障がいのある人やその家族が安心して地域で暮らせるよう、様々な相談に応じています。子育てについてアドバイスをしたり、必要に応じて心理・発達検査を実施します。就労を希望する発達障がい者に対して情報提供や関係機関との連絡調整も行っています。

特別支援教育サポートセンター (新潟市HP参照)

(新潟市中央区西大畑町458-1 ☎025-222-8996)

担当指導主事や専門相談員による発達検査や就学相談、教育相談、巡回相談、教員研修等の学校支援、保護者・市民への教育相談、関係機関の連絡調整を行っています。

困難な事例については、医師や臨床心理士などの専門家チームを設置し、学校や保護者に助言を行います。

保護者だけでなく、学校生活で心配なことがある小中学生本人からの相談にも応じます。

教育相談センター (新潟市HP参照)

(新潟市中央区西大畑町458-1 ☎025-222-8600)

様々な理由で学校生活になじめず、不登校状態にある小中学生や、保護者の方からの相談に応じています。

教育相談、体験活動、学習支援を通して、子どもたちの自立や学校生活への復帰を支援します。家庭訪問、夜間の学習指導や進路相談も実施しています。北区、江南区、秋葉区、

南区、西蒲区に各区教育相談室があります。

7 精神障がい

「うつ病」や「統合失調症」等のために、生活する上で困難を抱えている状態を言います。外見からはわかりにくく、「怠けている」などと誤解を受けることもあります。

強いストレスや生活環境の変化などが原因と考えられています。

症状によっては学習や仕事を続けることができなかつたり、コミュニケーションがうまく回れず、引きこもりの状態になってしまう場合もあります。

○統合失調症

統合失調症は、脳の様々な働きをまとめることが難しくなるために、幻覚（実際にはないものを感じる知覚の異常）や妄想（明らかに誤った内容を信じてしまい、周囲の人が訂正しても受け入れられない状態）などの症状が起こる病気です。

○気分障がい

「ゆううつな気分」「気持ちが重い」といった「うつ状態」がほぼ一日中あり、それが長い期間続くのが「うつ病」の症状です。気分がよくて無謀な買い物をするような極端な「躁状態」と極端な「うつ状態」が交互にあらわれるのが「双極性障がい」（躁うつ病）です。

○摂食障がい

食事をとりたがらない「拒食症」と、極端に大量の食物をとる「過食症」があります。過食の後に、食べ物を全部吐いたりする場合は、治療を要する摂食障がいの疑いがあります。

【精神障がいの人への配慮・理解】

周りの人たちが正しく理解し、支援することにより、社会参加できるようになります。本人の努力を認め、温かく見守るような配慮が大切です。

精神障がいの人たちをサポートする施設

こころの健康センター (新潟市HP参照)

(新潟市中央区川岸町1丁目57番地1 ☎025-232-5560)

こころの健康センターは、医師、精神保健福祉相談員、保健師等の専門スタッフで構成されています。

うつ病、統合失調症、アルコール・薬物依存、摂食障害等のこころの健康や、思春期・青年期におけるこころの健康、災害や事故後の気持ちの変化に関して、本人および家族との相談、社会復帰のための支援を行っています。



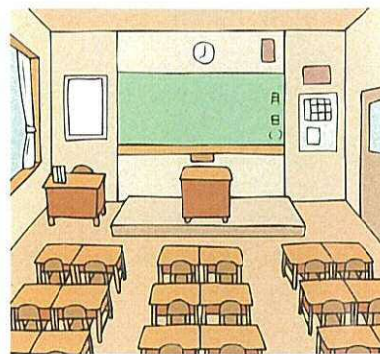
Ⅱ 障がいのある子どもたちの学習の場

障がい等により配慮が必要な子どもたちへの教育を特別支援教育といいます。新潟市には、障がいのある子どもたちが、その障がいの状態に応じて「通級による指導」「特別支援学級」「特別支援学校」等、専門的な支援が受けられる様々な学習の場があります。

○通常の学級

障がいがあっても、一人一人の実態に合わせた支援を受けながら、通常の学級で授業を受けている生徒がいます。

通常の学級で学習するのが困難な教科が増えてきた場合は年度の途中でも、特別支援学級へ在籍を変更することが可能です。また、特別支援学級に在籍した後、障がいに基づく困難が軽減した場合は、通常の学級に在籍を戻せます。



○通級による指導

新潟市には「ことば」「きこえ」「発達障がい」の通級指導教室があります。

通級による指導は、週1回、近隣の通級指導教室に通い、その障がいに関する専門的な指導を受けることができます。(詳細は新潟市HP参照)

「ことば」の通級による指導では、子どもの興味・関心に応じた遊びや会話を通して、正しい発音や、楽に話す方法を指導します。

「きこえ」の通級による指導では、補聴器等の活用に努め、子どもの「きこえ」を生かして、抽象的な言葉の理解を促します。

「発達障がい」の通級による指導では、知的発達や経験の状態、過敏性等の感覚の特性を考慮しながら、身辺自立をはじめ、具体的な生活技能や対人関係形成のための技能の習得を目指した指導を行っています。

○特別支援学級

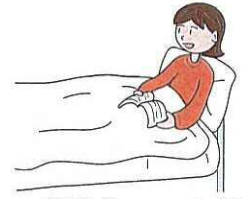
新潟市内の小学校、中学校には特別支援学級が設置されている学校があります。知的障がい、肢体不自由、身体虚弱、弱視、難聴、発達障がいなどがある児童生徒が、少人数で学習する場です。

特別支援学級は、一人一人の実態に合わせて、国語、算数・数学、音楽、体育などの学習を進めています。一人一人の実態に応じて、通常の学級の児童・生徒と一緒に学習する時間も、柔軟に組み込まれています。



○院内学級

長期療養で入院している児童生徒が学習するために設置された院内学級もあります。病気治療の上で負担にならない範囲で、主治医から学習を許可された児童生徒が、病院内で学習しています。



在籍小中学校の担当教員が病院に赴き、院内学習室での少人数学習や、病室での個別学習を行っています。 【新潟市内にある院内学級】

設置場所	住所	在籍小中学校名	院内学級名
新潟市民病院内	新潟市中央区鐘木463-7	東曾野木小学校	のぞみ学級
新潟大学医歯学総合病院内	新潟市中央区旭町通1-754	小-白山小学校 中-新潟柳都中学校	あさひ学級
新潟県立がんセンター新潟病院内	新潟市中央区川岸町2-15-3	小-鏡淵小学校 中-白新中学校	ひまわり学級

○特別支援学校

特別支援学校には、肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい、病弱、知的障がいの子どもを対象とする学校があります。

新潟市内には、新潟市立、新潟県立、大学附属の特別支援学校があります。

幼稚部、小学部、中学部、高等部があり、それぞれの年齢に該当する園児、児童、生徒が学習しています。

それぞれの障がいに配慮した施設や、専門的な設備・教材を活用しながら、一人一人の子どもがもっている力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するために必要な支援を受けられる場です。 【新潟市内にある特別支援学校】

学校名	対象学年	障がい名	所在地
新潟市立東特別支援学校	小・中学部	知的障がい	新潟市東区海老ヶ瀬31
新潟市立西特別支援学校	小・中学部	知的障がい	新潟市西蒲区堀山新田88
県立新潟盲学校	幼・小・中・高等部	視覚障がい	新潟市中央区山二ツ3-8-1
県立新潟聾学校	幼・小・中・高等部	聴覚障がい 知的障がい	新潟市東区小金台1-1
県立東新潟特別支援学校	小・中・高等部	肢体不自由	新潟市東区海老ヶ瀬994
県立はまぐみ特別支援学校	小・中・高等部	肢体不自由	新潟市中央区水道町1-5932 (はまぐみ小児療育センターに隣接)
県立江南高等特別支援学校	高等部	知的障がい	新潟市江南区北山1510
県立江南高等特別支援学校 川岸分校	高等部	知的障がい	新潟市中央区川岸町2-4 (白新中学校内)
県立西蒲高等特別支援学校	高等部	知的障がい	新潟市西蒲区堀山新田51-1
新潟大学教育学部 附属特別支援学校	小・中・高等部	知的障がい	新潟市中央区西大畑町5214

特別支援学校では、通常の授業の他に、障がいに基づく困難の改善・克服のための「自立活動」という学習が組み込まれています。一人一人の児童生徒の実態等にに応じて、自立して生活を送ることができるように指導内容が設定されています。

【特別支援学校における自立活動の例】

視覚障がい者	白杖を使った歩行指導、視覚情報を補うための触覚や聴覚等の活用の指導、弱視レンズ、拡大映像設備等の視覚補助具の活用の指導
聴覚障がい者	補聴器をつけての発音指導、言語指導、多様なコミュニケーション手段を活用する指導
知的障がい者	知的障がいに伴って見られる、極端な表出言語の遅れや強い情緒不安定、自己の行動のコントロールなど
肢体不自由者	姿勢保持や移動、食事・排泄・衣服の着脱などの日常生活動作、コミュニケーションの指導



白杖を使った歩行練習



発話練習



衣服の着脱練習

関連する書籍の紹介

様々な障がいについての理解や、障がいのある人への支援について、もっと詳しく知りたい場合は、下記の書籍を読んでみましょう。

「はじめの一步」 新潟市社会福祉協議会発行

※配付を希望する学校は連絡してください。(☎025-243-4370 へ)



「障がいを知る本」 全11巻 大月書店発行

ナンバー No.	書名	ナンバー No.	書名
1	障害と私たちの社会	7	自閉症の子どもたち
2	ダウン症の子どもたち	8	LD(学習障害)の子どもたち
3	てんかんのある子どもたち	9	知的なおくれのある子どもたち
4	ことばの不自由な子どもたち	10	からだの不自由な子どもたち
5	耳の不自由な子どもたち	11	障害児を支える人びと
6	目の不自由な子どもたち		

市立図書館では、「学校貸出セット(オレンジBOX)」に、福祉をテーマにしたセットを用意して学校に貸し出しています。

※内容は平成27年度のもので、最新版は、学校図書館支援センターへ問い合わせてください。

セットNo. ^{ナンバー}総合1 テーマ「^{しょうがい}バリアフリー・ユニバーサルデザイン」 ^{ごうけい}合計40冊

^{ナンバー} No.	シリーズ名・書名	発行所
1～6	「バリアフリー」って なんだろう？ 1～6	学習研究社
7～12	さがしてみよう！まちのバリアフリー 1～6 各2冊	小峰書店
13～22	バリアフリーの本 1～10	偕成社
23	町や住まいにあるバリア	くもん出版
24	バリアフリーをめざして	岩崎書店
25	ユニバーサルスポーツ&あそびアイデア集	学習研究社
26	“ちょボラ”でバリアフリーのまちづくり	学習研究社
27	しらべよう！りかいしよう！点字の世界3「町の点字をしらべよう！」	岩崎書店
28	障害をもつ人といっしょに	岩崎書店
29	ともにゆたかに生きるために	ポプラ社
30	みんながつかうたてものだから	偕成社
31～33	ユニバーサルデザインみんなのくらしを便利に1～3	あかね書房
34	ユニバーサルデザインがわかる事典	PHP研究所

セットNo. ^{ナンバー}総合2 テーマ「^{てんじ}点字・^{しゅわ}手話」 ^{ごうけい}合計30冊

^{ナンバー} No.	シリーズ名・書名	発行所
1～3	しらべよう！りかいしよう！点字の世界1～3	岩崎書店
4	世界の文字と言葉入門15	小峰書店
5～9	てではなそう1～5	柏書房
10～12	バリアフリーの本2・4・5	偕成社
13～17	ボランティアに役立つはじめてでである点字1～5	岩崎書店
18～23	やってみよう！はじめての手話1～6	岩崎書店
24	G-10とマナブくんの点字教室	全国視覚障害者情報提供施設協会
25	歌でおぼえる 手話ソングブック	すずき出版
26	子どものための手話事典	汐文社
27	手話の絵事典	PHP研究所
28	新・点字であそぼう	同友館
29	点字どうぶつえん	同友館
30	みんなで遊べる 手話ゲームブック	すずき出版

セットNo. ^{ナンバー}総合3 テーマ「^{しょうがい}障がい」 ^{ごうけい}合計29冊

^{ナンバー} No.	シリーズ名・書名	発行所
1～7	障害を知ろう！みんなちがって、みんないい 1～7	金の星社
8～19	発達と障害を考える本 1～12	ミネルヴァ書房
20～26	みんなで考えよう 障がいの者の気持ち 1～7	学研教育出版
27	こんなときどうする？発達障害のある子への支援 小学校	ミネルヴァ書房
28	障がいのある人たちとともに	岩崎書店
29	イラスト版からだに障害のある人へのサポート	合同出版

Ⅲ 障がいのある人たちの活躍

1 スペシャルオリンピックス2016新潟

スペシャルオリンピックスは、知的障がいのある人に、実行委員会事務局長 久保田 健
スポーツトレーニングや競技会の場を提供する活動です。



1962年に故ケネディ大統領の妹、ユニス・ケネディ・シュライバー夫人が、自宅の庭を開放して開いたデイ・キャンプが、スペシャルオリンピックスの始まりです。

この活動に参加する知的障がいのある人は「アスリート」と呼ばれています。「アスリート」はコーチや地域のボランティアと一緒に日々のトレーニングに励み、練習の成果を発表する場として、競技会に出場します。

競技会には、地区大会のほか、4年に一度開かれる世界大会とその前年に開かれる全国大会があります。2016年2月、新潟県で冬季の全国大会「スペシャルオリンピックス2016新潟」が開かれました。新潟市では、アイススケートとフロアホッケーの競技が、南魚沼市ではスキー競技が行われ、全国各地から約630人のアスリートが参加し、たくさんの市民が、大きな声援を送りました。

スペシャルオリンピックスは、多くのボランティアに支えられている活動です。全世界で100万人を超えるボランティアが参加しています。

スペシャルオリンピックスのボランティアは、次の三つに分けられます。

まずは、日々のスポーツトレーニングにかかわるボランティア。アスリートにスポーツを教えるコーチと、一緒にスポーツをするボランティアがいます。いずれも、アスリートの能力を引き出すために、欠かせない存在です。何より、アスリートがスポーツを好きになれるように、ボランティア自身も楽しみながら参加することが大切です。

次に、大会ボランティア。「スペシャルオリンピックス2016新潟」大会では、会場設営、選手団の案内や応援、競技の審判や補助員など、2,500人を超えるボランティアが大会を支えました。

三つ目が、事務局ボランティア。アスリートの参加申し込みの受付やボランティアの募集活動、パンフレットやホームページの作成など、トレーニングプログラムや大会の準備をするボランティアです。

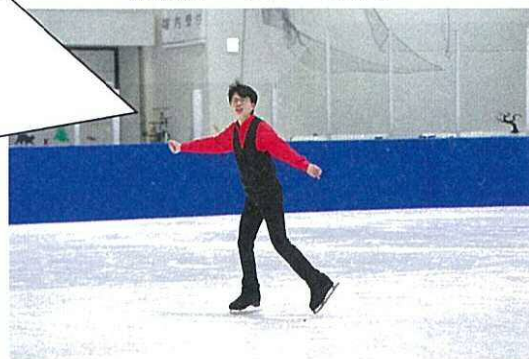
スペシャルオリンピックスに参加したボランティアのほとんどの方がこんな感想を述べています。「アスリートを支えようと思って参加したけれど知的障がいというハンディキャップのあるアスリートが、自分の力を最大限に発揮しようと、一生懸命に頑張っている姿を見て、逆に、勇気をもらいました」

あなたも、スペシャルオリンピックスに参加してみませんか。

2 「スペシャルオリンピックス2016新潟」に参加して

開会式では、選手宣誓をすることになり、緊張しましたが最後までやり遂げました。後半からはゲストが来て楽しかったです。二日目はエキシビジョンに出演し、森理世さんと一緒に滑りました。不安もありましたけど、何とか乗り越えられて良かったです。三日目は最終練習をして本番を迎えました。今までやってきたことを思い出して、今、できることを精一杯やろうと胸に誓いました。結果は銅メダルでした。たくさんの方々に支えられて、応援していただき、ありがとうございました。今後もスケートを継続したいです。これで終わりではなく、ここからがスタートです。

齋藤 舜 さん



アイススケート（新潟市）

唐津 克章 さん



スノーシューイング（南魚沼市）

初めて、ナショナルゲームに出ました。人がたくさんいてワクワク。「ヨッシャー」と気合いをいれて走りました。スノーシューイング100メートルで金、リレーで銀メダルを取りました。とってもうれしかったです。表彰式で大きな声で、バンザイ、バンザイと言いました。ナショナルゲームのメダルはきらきらとしてきれいなメダルです。これからも、練習をがんばります。

とても賑やかな大会で、開会式で歌って踊ったことがとても楽しかったです。試合を見に来てくれた友達と久しぶりに会えてうれしかったです。練習も試合も頑張ったけど、結果は4位で、とても悔しかったです。コーチや仲間ともしっかり練習して、次は優勝したいです。私は、大会後もずっと長くフロアホッケーを続けたいし、みんなにも続けてほしいと思いました。大会に協力してくれた皆さんに感謝しています。

帆刈 千恵 さん



フロアホッケー（新潟市）

（写真提供：スペシャルオリンピックス日本）

3 障がいのある人たちの働く姿

新潟市障がい者雇用企業認定事業（みつばち企業認定制度）について

この制度は「障がいのある方が働いていることをもっと知ってほしい。障がい者雇用を大切にする企業をもっと知ってほしい。」という思いから始まりました。

下のような「みつばちプレート」を見かけたら、そこは障がいのある方に理解があり、雇用に積極的に取り組んでいる事業所であるということです。



一匹一匹のみつばちは小さくてもそれぞれが協力して、たくさんの蜜（大きな成果）を得ること、蜜を見つけるとダンスをして、仲間を呼び寄せることから名付けられました。

この制度のシンボルである3匹のみつばちたちは、障がい者就労支援施設「あおぞらソラシード」に通所している、安永 陸さんによるデザインです。

福田道路株式会社（技術研究所での研究開発業務）

梶屋 清則 さん（発達障がい）

技術研究所では、歩行者やドライバーが安心して利用できる新しい舗装の研究開発を行っています。

写真は、開発中の特殊アスファルトの作製、実験、データ解析の状況です。

梶屋さんは、研究開発に必要な人材です。



ぴあケアプランセンター（相談員）

見田 幸乃 さん（肢体不自由）

見田さんは、特別支援学校卒業後、自動車の運転免許を取得しました。また新潟ふれあいプラザ（障がいのある方の自立と社会参加を自指す活動拠点施設）で勤務している間に、通信教育で大学を卒業し、特別支援教育の教員免許も取得しました。

その後、東新潟特別支援学校で講師として、2年間勤務した経験もあります。

現在は、ぴあケアプランセンターで、今までの経験を生かし障がいのある方の計画相談や、ケアホームに入っている方の、日常生活の問題や悩み相談を担当しています。

相談の後、「聞いてもらってスッキリした。」という言葉を聞くと、やりがいを感じるそうです。



ふれあいプラザ勤務当時に総合的な学習の時間で講師をした経験を生かし、今後も小中学校での講演を行います。

（※講演依頼は「ぴあケアプランセンター」 ☎025-271-5377 へ）

障がいのある人の就職をサポートする施設

新潟市障がい者就業支援センター こあサポート

（新潟市中央区八千代1-3-1 ☎025-256-8821）

障がいのある方の「働きたい」という想いと、「障がい者を雇用したい」と考えている企業の想いを結びつける役割を担っています。

障がい者雇用に前向きな企業は想像以上に多いのですが、たくさんの素晴らしい障がい者の方が、まだ一般社会で活躍し切れていないのが現状です。

両者が出会いの「マッチング」を、上手くコーディネートすることで、障がい者雇用を進めています。

障がい者就業・生活支援センター らいふあつぷ

（新潟市西区上新栄町3-20-18 ☎025-250-0210）

就職を希望する、あるいはすでに就職している障がいのある方に対して、様々な悩みについて相談に応じています。

就職できたことがゴールではなく、充実した職業生活が継続でき、会社は採用してよかったと思えるようになってほしいと考え、職場実習などの就職前の支援や、就職後の定着に向けた支援を大切にしています。

IV 高齢者について理解しよう

1 高齢化の現状

全国的には、少子高齢化が更に進行し、2030年には高齢者（65歳以上）の割合は、総人口の3割に達すると見込まれています。

新潟市でも高齢化が進んでいます。下のグラフ①を見てください。2015年（平成27年）11月末のデータでは、全人口の4人に1人が高齢者となっています。

グラフ②を見てください。

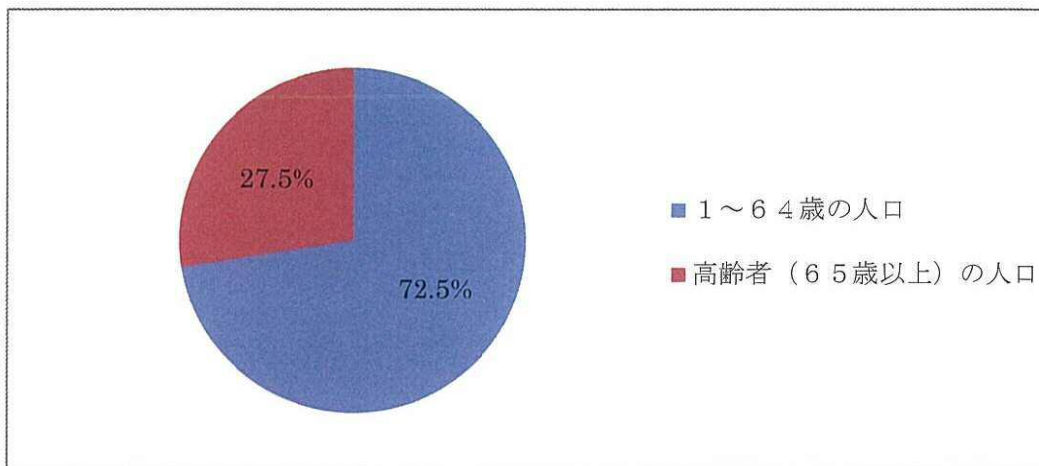
全世帯の半数以上が高齢者のいない世帯です。

若い人と同居している高齢者の世帯は20%以上ありますが、高齢者だけで暮らしている世帯が、25%以上になっていることがわかります。4世帯に1世帯が高齢者のみの世帯なのです。

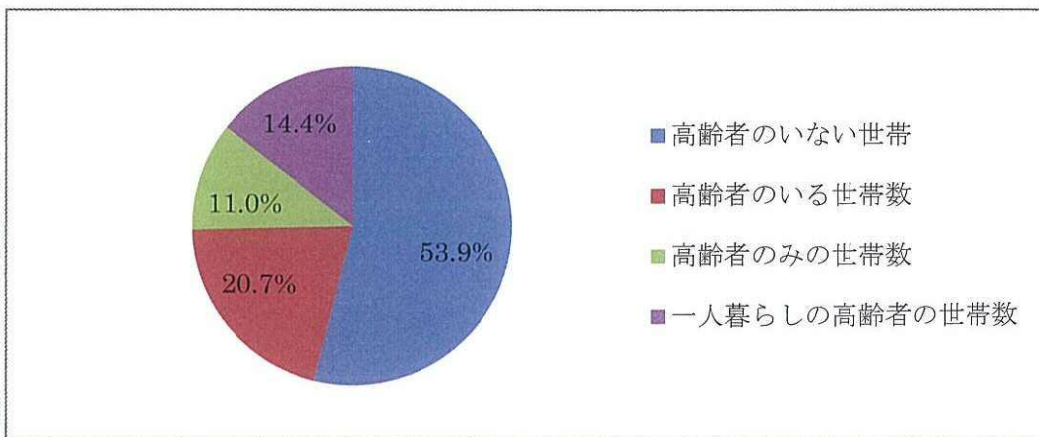
（最新版は新潟市HP参照）



①全人口に占める高齢者の割合（平成27年11月末のデータ）



②高齢者のいない世帯数・高齢者のいる世帯数・高齢者のみの世帯数
一人暮らしの高齢者の世帯数



2 高齢化による身体機能の変化

誰でも高齢になると身体の機能が衰え、以下のような症状が出てくる可能性があります。

- 視野が狭くなる。白内障等で物がよく見えなくなる。近くの物が見えにくくなる。
- 耳が遠くなる。特に高音が聞こえにくい。耳鳴りがする。
- 歯が弱くなる。歯周病等で歯が抜けてしまう。
- 歩幅が狭くなる。転びやすくなる。歩行が遅くなる。
- 骨がもろくなる。骨折しやすくなる。
- 筋力が低下する。物につかめない。重い物が持てない。
- 味覚が低下する。味がよくわからなくなる。味付けが濃くなる。
- 温感が低下する。低温やけどになりやすい。

新潟市社会福祉協議会には、高齢者がどんな身体状況になるのかを実際に体験できる「高齢者疑似体験」のセットがあります。その他、福祉教育の協力もしています。希望する場合は、各区の社会福祉協議会に連絡してください。(新潟市社会福祉協議会HP参照)

3 地域包括ケアシステム

新潟市では「地域包括ケアシステム」を推進しています。これは、高齢者に限らず、子ども、障がい者、高齢者を含む地域の方々を、地域で支えるシステムです。(新潟市HP参照)



4 住民参加型在宅福祉サービス

住民同士の助け合いとして、家事や見守り、買い物、ゴミ出し、灯油入れ等の、日常のちょっとした困り事に対応する団体が増えています。

5 介護保険サービス

○介護保険の対象者

介護保険制度は、40歳以上の人全員から介護保険料を納めてもらい、それを基に、寝たきりや認知症の高齢者に介護サービスを提供することを目的としています。

対象者は、65歳以上の人と、40歳以上65歳未満の人の2つに分かれます。入浴、排泄、食事などの日常の生活動作について介護や支援が必要になった時に利用できます。

○訪問介護 ～ホームヘルプサービス～

訪問介護員（ホームヘルパー）が自宅を訪問し、入浴、排泄、食事等の身体介助、食事の用意や衣類の洗濯、部屋の清掃等の生活援助を行います。

○通所介護 ～デイサービス～

高齢者がデイサービスセンターなどの施設へ通い、入浴や食事の提供や日常生活上の世話を受けます。

- ・着脱や排泄の介助、見守りなどのサービス
- ・レクリエーションなど、高齢者同士の交流



○通所リハビリテーション ～デイケア～

高齢者が介護老人保健施設などの施設へ通い、理学療法士等によるリハビリテーション、入浴や食事の提供を受けます。レクリエーション等も行います。

○短期入所生活・療養介助 ～ショートステイ～

介護する方の負担を軽減するために、特別養護老人ホームや老人保健施設・病院等の施設へ、高齢者が短期入所し、入浴、排泄、食事等の介助や、日常生活上の世話・機能訓練等のサービスを受けます。

○介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

常時介護が必要で、自宅では介護が困難な高齢者が入所します。施設サービス計画に基づいて、入浴、排泄、食事等の介助、日常生活上の世話、機能訓練、健康管理等のサービスを受けることができます。



V 認知症について学ぼう

1 認知症とは

認知症は、誰にでもなる可能性のある病気です。いろいろな原因で、脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったために、生活する上で支障が出てきます。年をとるほど認知症になりやすく、85歳以上では4人に1人が認知症になっています。(厚生労働省HPより)

認知症の初期における特徴的な症状は、「最近のことを思い出せない」ことです。

老化による「もの忘れ」と、認知症による「もの忘れ」は違います。

老化による「もの忘れ」と認知症による「もの忘れ」の違い

老化による「もの忘れ」	認知症による「もの忘れ」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験の一部を忘れる <p>例 食事したことは覚えているが食べたものを忘れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験そのものを忘れる <p>例 食事したこと自体を忘れる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活にあまり支障がない <p>例 昔、活躍した歌手の名前を思い出せない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活に支障をきたす <p>例 仕事の約束を忘れる。 例 毎日通っている道で迷う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ もの忘れをしている自覚がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ もの忘れをしている自覚がない
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しいことを覚えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しいことを覚えられない

認知症の症状が進むと、外出したまま家に帰れずにあちこちを徘徊したり、人格が変わり暴言や暴力を振るったりして介護している人にとって非常に苦痛な状態に陥ることもあります。

認知症とその予防法、認知症の方々への支援について学び、私たちにできることを考えましょう。



○アルツハイマー型認知症

一番多いのが「アルツハイマー病 (アルツハイマー型認知症)」で男性より女性に多くみられます。1907年にドイツの精神科医であるアルツハイマー博士が初めて報告したことから、博士の名前が病名に付けられました。

アルツハイマー病は、脳内にアミロイドβという物質が蓄積することが原因と考えられています。早期発見と治療で進行を遅らせることができます。

○脳血管性認知症

次いで多いのが「脳血管性認知症」で、比較的男性に多く見られます。脳血管性認知症の場合、脳梗塞 (脳の血管が詰まる) や脳出血 (脳の血管が破れる) などが原因で、その部分の脳の働きが悪くなるために、転びやすい、言葉が出てこないなどの症状が見られます。

○レビー小体型認知症

男性に多い認知症です。レビー小体が脳皮質に蓄積することが原因と考えられています。手足のふるえ、筋肉の硬直、小刻み歩行などの症状が見られます。また、実際には存在しないものが見える、幻視などの幻覚症状も特徴です。

○若年性認知症

若くても、脳血管障がいや若年性アルツハイマー病のために認知症を発症することがあります。65歳未満で発症した認知症を「若年性認知症」と言います。

若年性認知症の人は、働き盛りの年代であるため、本人だけでなく家族の生活にも大きく影響します。仕事を続けることが困難になり、退職した結果、経済的に苦しい状況になることもあります。

2 認知症は予防できる

○軽度認知障がい (MCI) mild cognitive impairment の略

「軽度認知障がい」は、認知症の一步手前の段階で、軽い記憶障がいなどはあっても基本的に日常生活は送れる状態です。認知症の予備軍とも言えます。下のような症状が、3つ以上見られる場合は、専門医に診察してもらうことが必要です。

- ・外出するのを面倒くさがる
- ・外出時の服装に気を使わない
- ・同じことを何回も話す
- ・小銭の計算が面倒でお札で支払う
- ・手の込んだ料理を作らなくなる
- ・味付けが変わったと言われる
- ・運転していて車をこすることが増える

軽度認知障がい (MCI) は、脳内の細い血管から出血したりして神経細胞が壊れることが原因と考えられています。

特徴的な症状は、歩く速さが遅くなる (秒速80m, 時速2.9kmを下回る) です。信号が変わる前に横断歩道を渡れきれなくなる程度の速さです。日頃から「速歩き」を心がけることは、脳によい刺激を与えることにつながります。

軽度認知障がい (MCI) の段階で発見し適切に対処すれば、認知症になることを防いだり、先送りできることがわかってきました。しかし、認知症と診断されることを恐れ、専門機関に相談することをためらう傾向があるのも事実です。

認知症の予防薬も開発されています。今後一層、高齢化が進むことを考えると、これからは認知症を予防する時代になります。



○認知症を予防するポイント

認知症は、現在、根治が望めない病気なので、その予防対策は大変重要です。生活習慣を改善することで、認知症を予防することができます。

- 青魚（秋刀魚，鯖，鰯等）を積極的に食べる
- 野菜や果物を多く食べる
- 水分を十分にとる
- 適度な運動を習慣化する
- 頭を使う趣味をもつ
- 人との絆を大切にする



厚生労働省 HPより

3 認知症サポーターになろう

厚生労働省では「認知症を知り地域をつくるキャンペーン」の一環として、「認知症サポーターキャラバン」事業を実施しています。認知症サポーターは、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する応援者です。

○認知症サポーターに期待されること

(詳細は厚生労働省HP参照)

- 認知症に対して正しく理解し、偏見をもたない。
- 認知症の人や家族に対して温かい目で見守る。
- 近隣の認知症の人や家族に対して、自分なりにできる簡単なことから実践する。

○新潟市の「認知症サポーター養成講座」

新潟市でも、認知症について正しく理解し、認知症の人やご家族を見守り支援していくまちづくりに取り組んでいます。みなさんも、認知症サポーターになってみませんか。

新潟市の「認知症サポーター養成講座」では、認知症についてわかりやすく学ぶことができます。受講者には、認知症サポーターになった証であるオレンジリングが渡されます。

個人でも、学級・学年単位でも受講できます。希望する場合は、各区の健康福祉課へ問い合わせください。

(健康福祉課の電話番号は新潟市HP参照)



オレンジリング

「認知症サポーター養成講座」

講師	キャラバンメイト（新潟市の研修を受講した講師）
内容	認知症の症状や具体的な接し方
時間	60分～90分
教材	認知症サポーター中学生養成講座副読本「認知症を知ろう」
受講料	無料
申込	10名以上の団体で各区健康福祉課高齢介護係へ問い合わせ



認知症サポーター養成講座 基本カリキュラム

基本となる内容	標準時間
●認知症サポーター100万人キャラバンとは	15分
●認知症の症状 ●中核症状 （記憶障がい、見当識障がい、理解・判断力の障がい、実行機能障がい、感情表現の変化）	30分
●周辺症状とその支援	
●認知症の診断・治療 認知症の予防についての考え方 認知症の人と接するときの心構え 認知症介護をしている人の気持ちを理解する	30分
●認知症サポーターとは ●認知症サポーターのできること	15分

4 認知症の人と接するときの心構え

認知症の症状は、その人の性格や生活環境によって現れ方がそれぞれ違います。

認知症の症状に最初に気づくのは本人です。もの忘れで失敗したり、今まで簡単にできていた家事や仕事があまくいかず、何となくおかしいと感じ始めます。特に、人に言われても思い出せないことが多くなると、不安を感じ始めます。

「認知症になったのではないか」という不安は、想像を絶するものでしょう。認知症の人は何もわからないのではなく、誰よりも心配で、苦しくて、悲しいのです。

認知症の人には、障がいを理解した上で、温かく見守り、適切な援助をしてくれる人が必要です。

まちのあらゆるところに、援助をしてくれる人がいれば、認知症の人は外出もでき、自分でやれることも増えるでしょう。

こころのバリアフリーの地域社会をつくるのが認知症サポーターの役割です。



VI 高齢者の方たちの大きな力

私たちの住んでいる地域を支えているのは高齢者の方たちです。子育て中の家庭や高齢者のいる家庭などへの支援や、地域住民の見守りを行っています。

新潟市シルバー人材センター（各区の事務所は「シルバー人材センター」HP参照）

流石 美智子 さん（中央区の家事援助グループリーダー）

新潟市シルバー人材センターでは、利用者の要望に合わせて、草取り、庭木の剪定、宛名書き、障子張り、家事援助など、様々なサービスを高齢者の方々が提供しています。

流石さんは、共働き世帯や、一人暮らしの高齢者のお宅に伺い、掃除、洗濯、食事の支度・後片付け、子どもの送り迎え、病院の付き添い等、短時間で多くのことを手際よくこなしています。



誠実に対応し信頼を得るのが大切です。子どもたちや高齢者の方と接していると、こちらにもエネルギーをもらえ、人として成長させていただいていると感じます。『白頃できない所まできれいに掃除してもらえてありがたい』という声が一番うれしいです。

民生委員・児童委員 井上 ひろみ さん

（高齢者福祉部会 副会長，鳥屋野地区担当）

民生委員・児童委員は地域の住民の方の相談にのり、市役所や包括支援センター等の関係機関に話をつなぐ役割を担っています。

井上さんは、地域の保育園の依頼で、得意の裁縫で、おんぶ紐を10本も作ってあげたり、早朝の除雪応援隊を集めたりしています。

小学校では、ミシン指導、読み聞かせ、卓球クラブの指導も行っています。高齢者をつなぐため、楽しい会をたくさん実施しています。



地域の人と関わることで、自分が元気になれるし、人が喜んでくれると自分もうれしいです。『やってあげる』ではなく『一緒にやりましょう』が大切だと思います。

ウォーキングの会 日曜の朝、6時半（冬期は7時）から1時間、約20人の高齢者で地域を歩きます。雨の日も傘をさし、話しながら楽しく歩いています。年に1回は、遠方に出かけます。

えんがわの会 午前中は運動指導員の指導で楽しく身体を動かし、昼食は井上さんの畑でとれた野菜や手作り味噌も使って用意したご馳走をいただきます。桜餅を作ったこともあります。



Ⅶ 高齢者や障がいのある人たちとの交流

中学生になると、学習や部活動などで放課後や休日にも忙しくなり、ボランティアの時間を見い出すことが難しくなる傾向があります。しかし、新潟市内には、様々な工夫をして、学校全体で、あるいは参加者を募って、ボランティアを続けている中学校があります。

○中学生が主役の防災訓練（南浜中学校）

新潟市立南浜中学校の学区も高齢化が進んでいます。災害が起きた時には、中学生は大きな力を発揮します。いざという時に、地域の高齢者の避難誘導がスムーズにできるように、日頃からお互いの顔と名前がわかるようにしています。

休日に、地域の方々と一緒に防災訓練を行っています。自治会の方々と協力して、けが人の搬送やけがの手当の仕方、炊き出し訓練、消火訓練のバケツリレー等を行っています。



○気持ちが安らぐステージ発表（赤塚中学校）

赤塚中学校の音楽部（1・2年）は、10月に行われる佐潟荘の文化祭の時に、体育館で、入院されている方々に心温まる合唱を披露しています。

校歌、「ふるさと」「もみじ」などの唱歌、それに、ミッキーの大きな耳を付けたり、帽子をかぶったりして歌う「星に願いを」「ビビディバビディブー」などのディズニーメドレーも好評です。練習を重ね、県大会で金賞をもらった課題曲「プレゼント」（SEKAI NO OWARI 作）を披露したこともあります。毎年、どんな曲を発表するかは生徒自身で決めています。約30分間のステージ発表を聴きながら、うなずいたり、拍手したりして、患者さんの心が柔らかくなっていく様子が伝わってきます。



○夏休みの訪問ボランティア（白南中学校）

白南中学校では、参加者を募り、夏休み中に地域の高齢者福祉施設や障がい者の方の就労支援施設でのボランティア活動を毎年行っています。特別老人ホーム「しなの園」、特別養護老人ホーム「にいだの里」、グループホーム「さくらの里」で、シーツ交換をしたり、ヨーヨー釣りを作って高齢者の方々と一緒に楽しんだり、お話を聞いたりして交流しました。「第二たがみの里デイサービスセンター」では、一年生全員が合唱を披露しました。



○冬期五味（支・愛・繋・合・協）出しボランティア支援活動（亀田西中学校）

高齢者にとって、冬のごみ出しには危険が潜んでいます。早朝作業であることや、「ごみ」であるために、他の人をお願いしにくいという点が課題です。

亀田西中学校では、ごみ出しの危険性が高まる冬期間に、地域に住む高齢者世帯等で希望する方に対し「ごみ出し支援」を行っています。

地域包括支援センターが中心になり、高齢者の方に活動を知っていただき、利用したい・利用した方が安心だと思われる方に「利用希望申込書」を提出してもらいます。

学校では、コミュニティ協議会の方が、直接、地域の現状を中学生に説明し協力をお願いします。ボランティア活動を「したい」と思った生徒に「ボランティア参加意思カード」を提出してもらいます。毎年多くの生徒が提出してくれています。

利用希望者と生徒の通学路を中学校の地域教育コーディネーターがマッチングし、準備をします。

12月から3月の4か月間、学校登校日に限り、学校に行く途中にごみ出しボランティアをします。

【利用者の感想】

- ・寒い中、ごみ出しの支援をしていただきありがたい。
- ・保護者の方にもお礼を言いたい。
- ・若い人がわからず不安だったが見直した。

【生徒の感想】

- ・毎回、玄関のところで待っていてお礼を言ってもらえた。
- ・利用者のご家族の方がお礼を言いに来てくれた。
- ・季節に関係なくやりたい。大人になってもボランティアをしたい。



新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例の概要

目的

障がいのある人もない人も安心して暮らせる共生社会の実現

※「障がいのある人」とは、障がい者手帳を所持している人に限らず、身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がい、難病を原因とする障がい等の、心身の機能の障がいがある人で、障がい・社会的障壁により、日常生活や社会生活に相当な制限を受ける状態にある人を言います。

基本理念

全ての市民が、障がいや障がいのある人に対する理解を深めるとともに、話し合いにより相互の立場を理解すること

条例で禁止している事項

市・事業者に対して、障がい等を理由とする差別（不利益な取扱い・合理的配慮の不提供）を法的義務で禁止 ※差別を法的義務で禁止していますが、話し合いによる解決を優先します。

不利益な取扱い…正当な理由がないのに、障がいを理由として、サービスなどの提供を拒否したり、制限したり、また障がいのない人には付けないような条件を付けたること。

< 具体例 >

- ・スポーツクラブや習い事の教室などで、障がいがあることを理由に、入会を断ること。
- ・アパートの契約の際、障がいがあることを理由に、アパートを貸さないこと。
- ・車椅子を利用していることを理由に、入店を断ること。

合理的配慮の不提供…障がいのある人から何らかの配慮を求める意思の表明があった場合、または、意思の表明がなくても何らかの配慮が必要なことを認識しうる場合に、その人の人権・意向を尊重して、社会的障壁を取り除く合理的な配慮をしないこと。※配慮が大きな負担になる場合は、合理的配慮の不提供に当たりません。

< 具体例 >

- ・聴覚障がいのある人に声だけで話すこと。
- ・視覚障がいのある人に善類を渡すだけで読み上げないこと。
- ・知的障がいのある人にわかりやすく説明しないこと。

合理的配慮と障がい特性について

「障がいのある人が、その障がい特性により困っているときに、その人の求めに応じて、その人に合った調整や工夫を行うこと」を合理的配慮といいます。

普段、私たちが眼鏡をかけたり、お年寄りに少し大きな声でゆっくり話しかけたりするように、不自由さを補う調整や工夫があれば、障がいのある人にもできることはたくさんあります。様々な障がい特性や、障がいのある人への配慮を正しく理解することで、日常生活で障がいのある人に合わせた調整や工夫を行うことができ、みんなが、楽しく、安心して暮らせるようになります。

新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例

平成28年4月1日施行

前文

障がいのある人もない人も、全ての市民が、障がいの有無にかかわらず、生き生きと自分らしい生活を営み、安心して暮らすことのできる社会こそが、私たちが目指す共に生きる社会です。

このような社会を実現するためには、障がいのある人が社会を構成する一員として、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会や、可能な限り、どこで誰と生活するかについての選択の機会が確保されること、障がいのある人の自己決定が尊重されることが必要です。

しかしながら、障がいのある人は、周囲の理解不足や誤解、偏見により障がいを理由に不利な取扱いを受けたり、障がいに対する配慮が十分でないために日常生活の様々な場面で生きづらさや差別感を感じている状況にあります。

また、障がいのある人は、障がいに加え、性別や年齢等による複合的な原因により特に困難となる状況もあります。

このような理解不足や誤解、偏見をなくすため、全ての市民が障がいの多様性を認識し、障がいや障がいのある人に対する理解を深めるとともに、話し合いにより相互の立場を理解することを基本理念として、この条例を制定します。

第1章 総則（抜粋）

（目的）

第1条

この条例は、障がいのある人を取り巻く状況について理解を深めるための施策を推進することにより、障がいのある人の人格及び人権が尊重され、社会的障壁のない共に生きる社会を実現することを目的とします。

（市民等の役割）

第4条

市民及び事業者は、障がい及び障がいのある人に対する理解を深めるとともに、障がいのある人に対する差別を解消する取組を市と一体になって行うよう努めなければなりません。

2 市民及び事業者は、障がいのある人の生きづらさ及び思いを理解し、障がいのある人との交流を深めるよう努めなければなりません。

第2章 差別の解消（抜粋）

第1節 差別の禁止

第5条 何人も、差別をしてはなりません。



ちゅうがくせいふくしどくほん
中学生福祉読本

だれもが心豊かに暮らせるまちづくり

はっこうび へいせい ねん がつ
発行日 平成28年4月

へん しゅう ふうしどくほんさくせい いんかい
編集 福祉読本作成委員会

はっ こう にいがた しきょういく いんかい
発行 新潟市教育委員会